

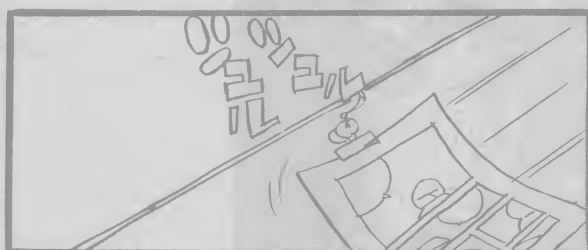
シリーズ黄色い涙・  
SHINJI. GEKIGA  
COLLECTION. NO2

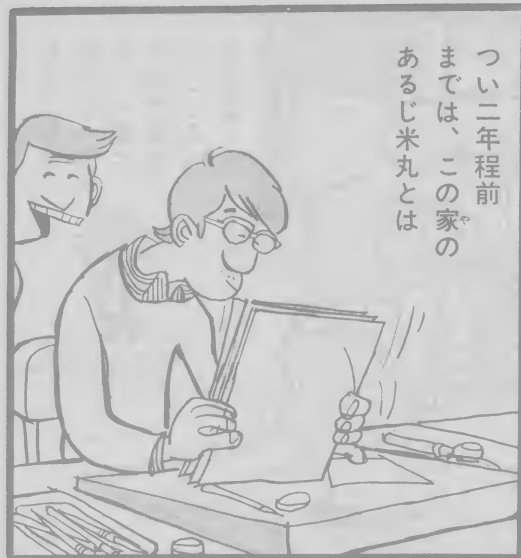
# アシタート



作, 構成  
永島慎二







つい二年程前  
までは、この家の  
あるじ米丸とは



下北沢長平先生の  
ところでも  
アシスタントを  
していたのですが



米丸に、月刊誌の  
「少年ゴジラ」より  
れんさいの話が  
あった時



わたくしの姓についてことわつ  
ておきますが、けつしてくげ  
とかもとかぞくなどとはかんけ  
いありません。れつきとした、  
東北の水のみ百姓のところで長男  
坊としてとれたのであります。



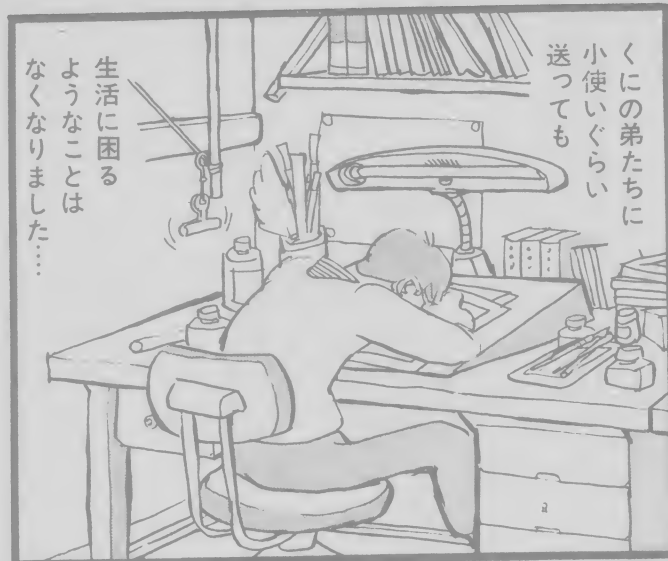
わたくしは  
彼にさそわれ  
て、一緒に  
下北沢先生  
のところを  
やめました

米丸の最初の  
れんさいは、あたり  
にあたり、下北沢  
先生の人気を  
とおりこして  
テレビ化されました

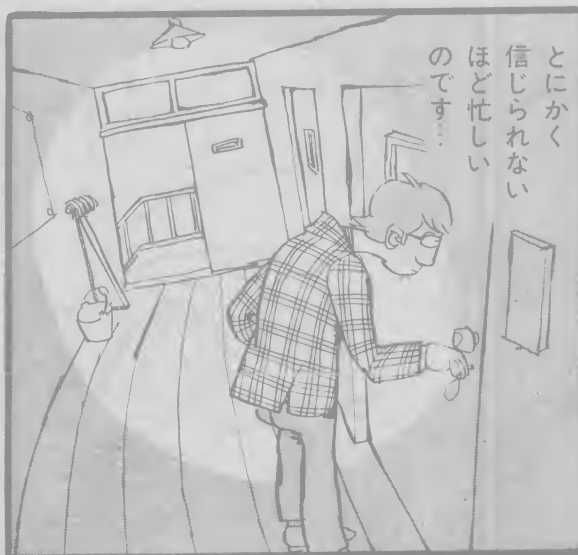


テレビ化されると  
原稿料のほかに  
色々とお金のほう  
からあゆみより

一年半も  
たたぬうちに  
このような家も  
なんの苦もなく  
たつてしまったので  
ございます……







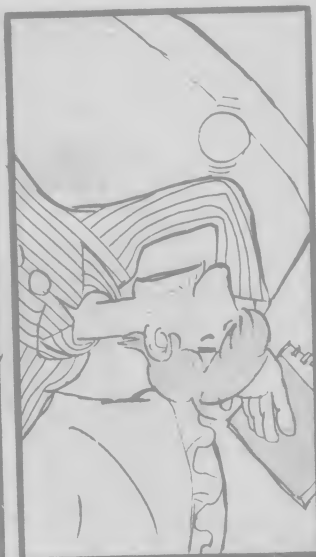
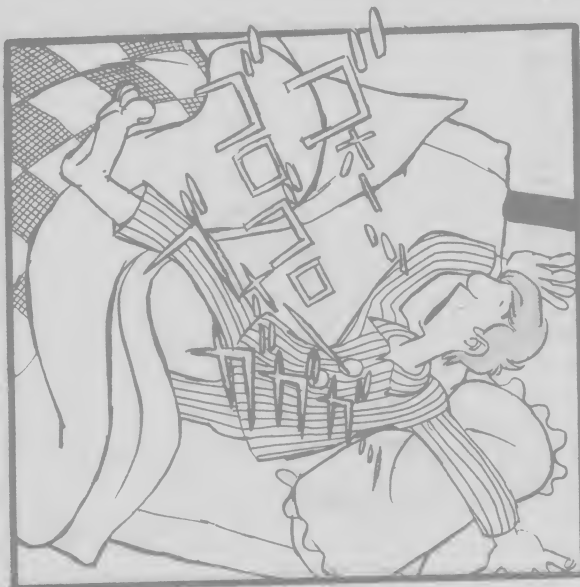
なにしろ、週刊誌  
二本に月刊誌七本  
しめて月産三百ページ  
はくだったことがないのだ  
からむりもありません  
人間らしい生活など  
いうものは……ここ  
一年間、まずお目に  
かかったおぼえが  
ありません……

北横路米丸  
か……一体  
きやつは…  
なにもの  
なのか!?

とにかく  
こう忙しいと  
何かをゆつくり  
考えるなどと  
いうことは  
まるでできな  
く  
なってしまう











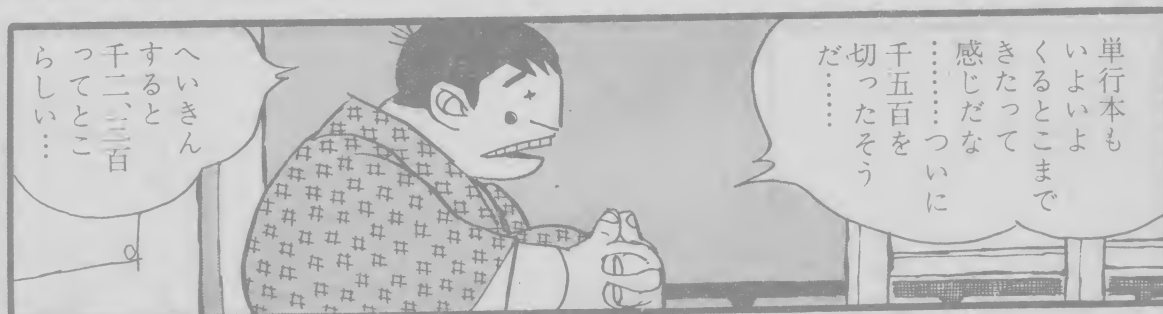
生活に  
おいかけられて  
描いてちやな

だめだ  
よ……

ふーむ  
やってる  
なあ



一番新し  
いんだ……  
読んでくれ



単行本も  
いいよ  
くるとこまで  
きたって  
感じだな  
………ついに  
千五百を  
切ったそう  
だ……

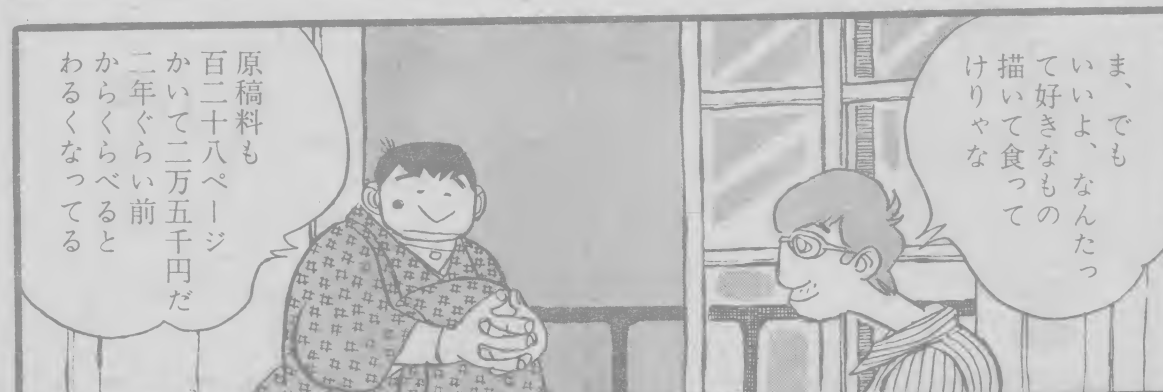
へいきん  
すると  
千二、三百  
ってとこ  
らしい……



単行本は  
なにしろ  
貸本屋むけ  
だけだから  
な……

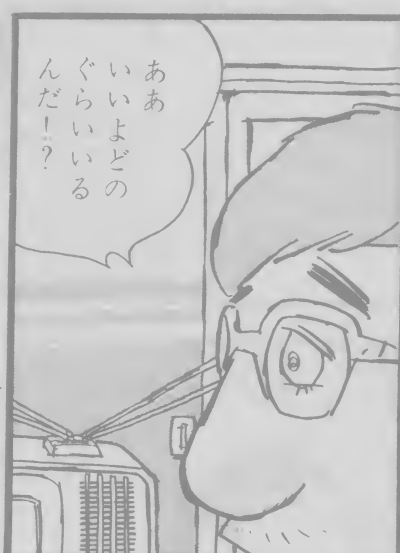
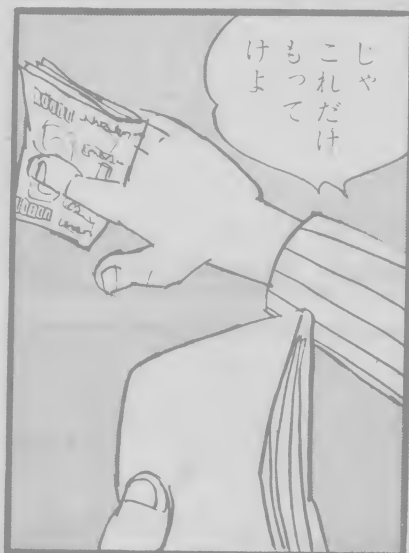


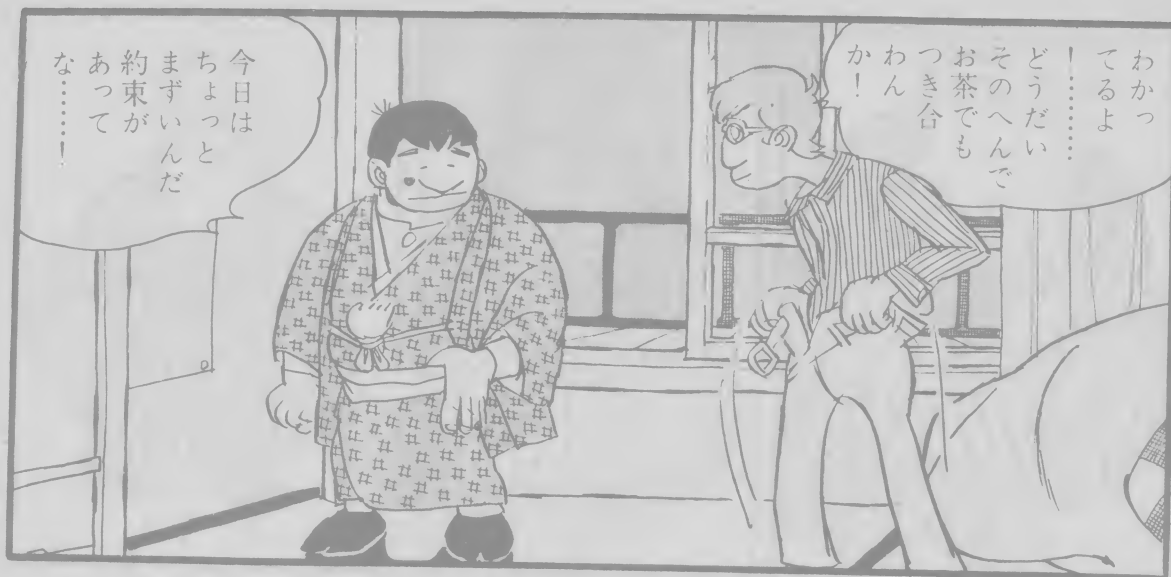
千二百は  
ひでえな  
……「少年  
サタン」なんて  
週刊誌は  
八十万部も  
売れてるって  
のにな……



ま、でも  
いいよ、なんとっ  
て好きなもの  
描いて食って  
けりやな

原稿料も  
百二十八ペー  
ジ  
かいて二万五千円だ  
二年ぐらいい前  
からくらべると  
わるくなってる

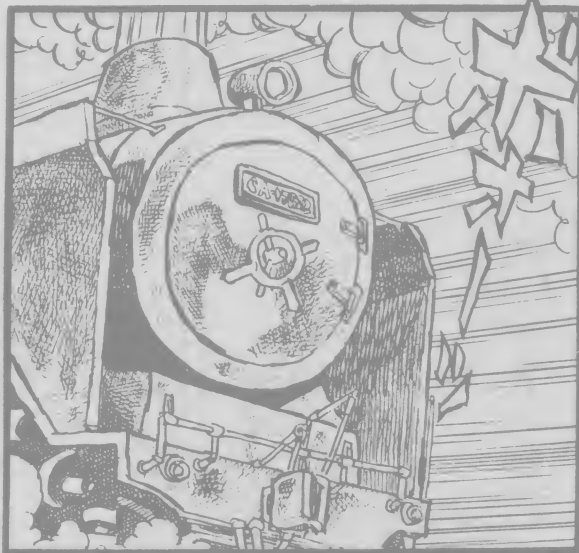






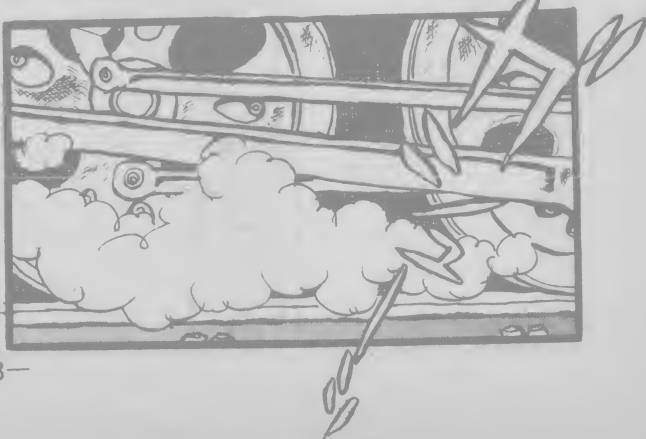








うえ  
の  
上野





東京に  
ついてもべつに  
どこにいくといった  
あてなど全然  
なかったのです

とにかく自分の好きな  
先生に絵をみてもらい

出来ることなら  
弟子にしてみたい

そんな気持で  
まず出版社をたずね  
先生の住所をたずね  
たのです——  
ところが……

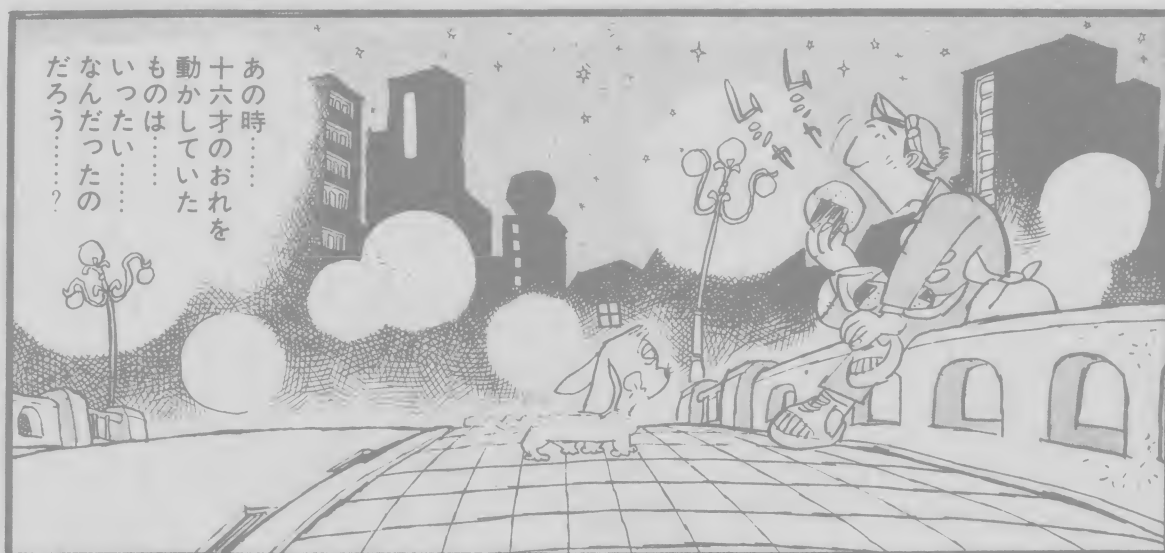




約二十五時間  
かかってついたところが  
下北沢長平先生の  
ところだった訳です



あの時……  
十六才のおれを  
動かしていた  
ものは……  
いつたい……  
なんだったの  
だろう……？



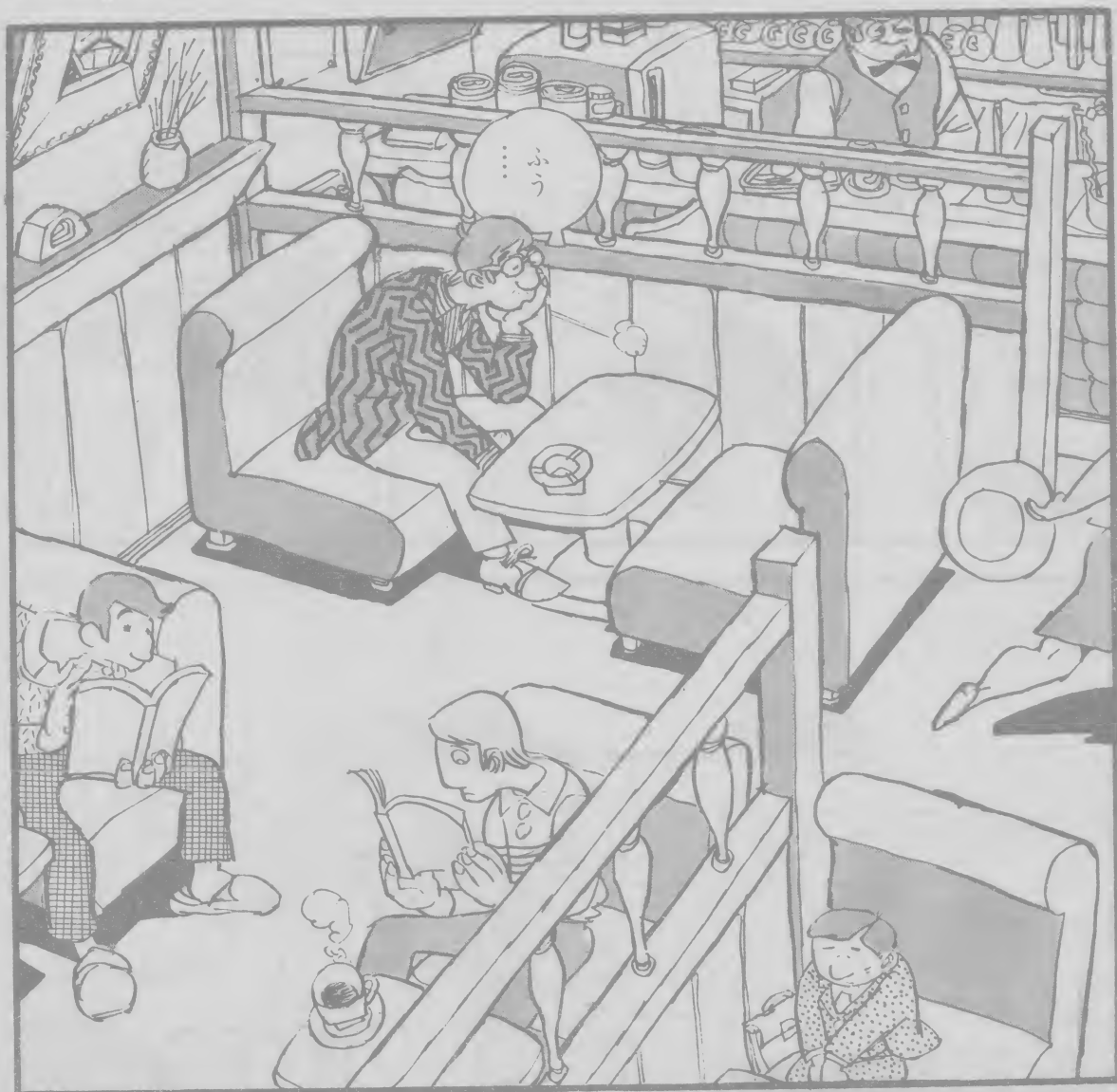
あの夜つめたい  
線路の上から  
みた空の  
かがやきは  
……ただの  
星の光に  
すぎなかつた  
のだろうか……















永島先生は、今、「少年画報」に「トリプル・エース」を連載中です。

